

一般法規 6

授業内容・授業計画

| | |
|------------|----------------------|
| 1 ～ 2 時間目 | 社会のルール、法体系、民法(全体・能力) |
| 3 ～ 4 時間目 | 民法(法人・意思表示) |
| 5 ～ 6 時間目 | 民法(代理・時効) |
| 7 ～ 8 時間目 | 民法(物権・担保物権) |
| 9 ～ 10 時間目 | 民法(債権) |

民法 総則

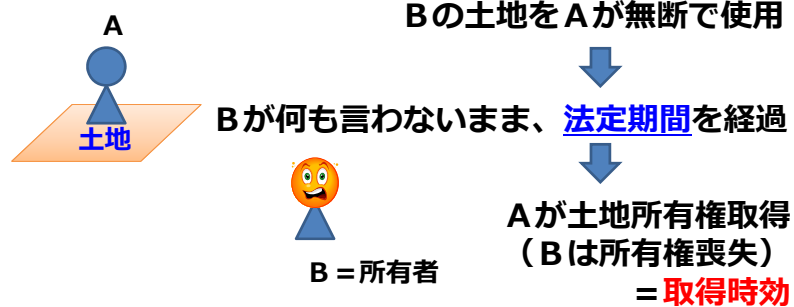
時効

時効とは

- **時効**の定義
「ある事実状態、例えば他人の土地を無断で
使用している状態が長期間継続している場合、
たとえその状態が真実の権利関係と異なって
いたとしても、その状態を権利関係として承
認する」制度のこと
- 2つある時効のかたち
取得時効
消滅時効

取得時効

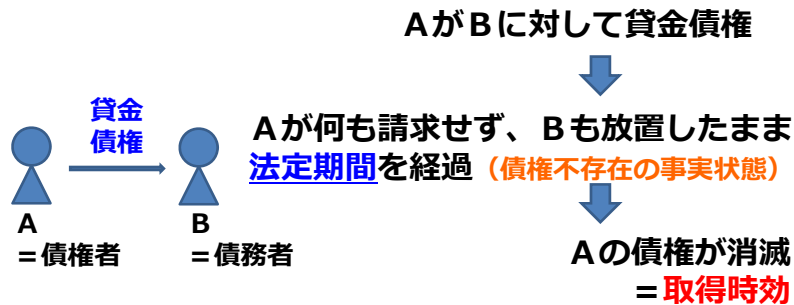
新たな権利を取得するもの（取得時効）



法定期間 = 10年ないし20年

消滅時効

新たな権利を取得するもの（取得時効）



まるでBがお金を借りていないかのような状態が
原則として10年続く ⇒ 債権債務が消滅

時効制度の趣旨

- 事実状態の尊重

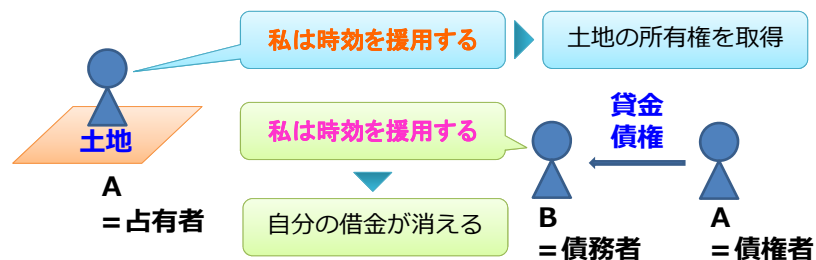
永続した長く続いた事実状態を尊重し、そのままでの状態を法的に承認した方が法秩序が安定する

- 権利安住の非保護

権利の上に眠れる者は保護に値しない

時効の援用

- 時効の効果を主張する旨の意思表示



問題

なぜ、時効による権利変動のために、援用が要求されるのか？

時効の成立要件

不確定効果説… 2つそろって初めて権利変動が確定する

法定期間経過

- 10年あるいは20年の時の経過が必要

時効の援用

- 時効の効果を主張する旨の意思表示が必要

時効の援用権者

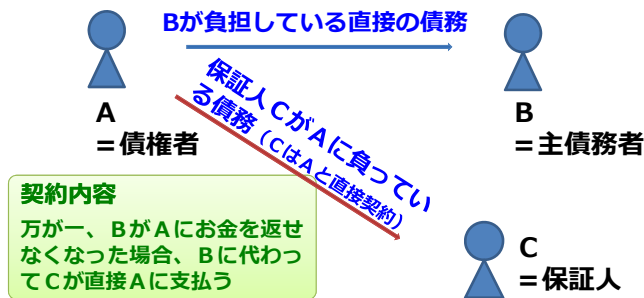
「援用します」と言える人はだれか？

時効により、
「**直接に**利益を受ける者」

どこまでが直接で、どこから
が間接なのか区別できるか？

時効の援用権者 ①保証人

BがAからお金を借りていて、CはBの借金を保証している

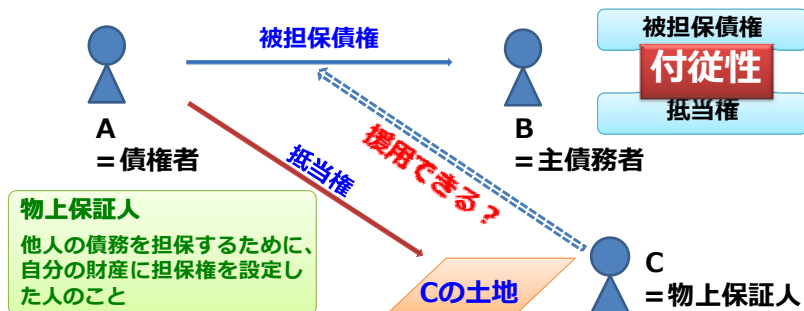


問題

Aからの請求がないまま10年が経過したとき、Cは主たる債務について時効を援用できるか？

時効の援用権者 ②物上保証人

AがBにお金を借すにあたり、Bの友人Cの土地に抵当権を設定した



問題

Aからの請求がないまま10年が経過したとき、Cは消滅時効の援用ができるか？

抵当権設定

| | | | | | | |
|---------------------------|-------|----------------------|---|------------------------------|-------|------|
| 表 | 部 | (土地の表示) | 調製 | 平成4年11月12日 | 不動産番号 | 〇〇〇〇 |
| 地図番号 | H* - | H* - | 境界特定 | (空白) | | |
| 所在地 | 原田町 | | | (空白) | | |
| | 石存市 | | | 平成17年 〇月〇日変更 平成17年 〇月〇日変更 | | |
| ① 地番 | ② 地目 | ③ 地積 | ④ ⑤ ⑥ | 原田及びその日付(登記の日付) | | |
| 番 | 項 | 値 | 3.12.25. | | | |
| (空白) | (空白) | 2.73.7. | ⑦ 〇〇番 〇〇番 に分筆 (昭和38年8月 〇日) | | | |
| (空白) | (空白) | 2.27.6. | ⑧ 〇〇番 〇〇番 に分筆 (昭和49年〇月 〇日) | | | |
| (空白) | 原野 | 2.75.7. | ⑨年月日不詳変更 ⑩年月日不詳 ⑪土地調査による成果 (昭和56年3月18日) | | | |
| (空白) | (空白) | (空白) | 昭和63年法律第37号附則第2条第2項により付記 平成4年11月12日 | | | |
| 権利部 (中区) (所有権に関する事項) | | | | | | |
| 順位番号 | 登記の目的 | 受付年月日・受付番号 | 権利者その他の事項 | | | |
| 1 | 所有権移転 | 昭和8年〇月 〇日 第 〇〇番 | 原田 昭和8年〇月 〇日売買 所有権 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇番地 順位1番の登記を移転 | | | |
| | (空白) | (空白) | 昭和63年法律第37号附則第2条第2項により付記 平成4年11月12日 | | | |
| 2 | 所有権移転 | 平成18年〇月 〇日 第 〇〇〇番 | 原田 平成14年〇月〇日相続 所有権 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇番地 〇〇〇〇 | | | |
| 権利部 (中区) (所有権以外の権利に関する事項) | | | | | | |
| 順位番号 | 登記の目的 | 受付年月日・受付番号 | 権利者その他の事項 | | | |
| | 居住権設定 | 平成〇〇年〇月〇日 第 〇〇〇番 | 原田 平成〇〇年〇月〇日 金銭消費貸借契約締結 債権者 金 〇〇〇〇〇〇万円 借権者 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 担保金 有 〇〇% 借権者 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇番地 居住権者 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇番地 株式会社 〇〇〇〇 | | | |

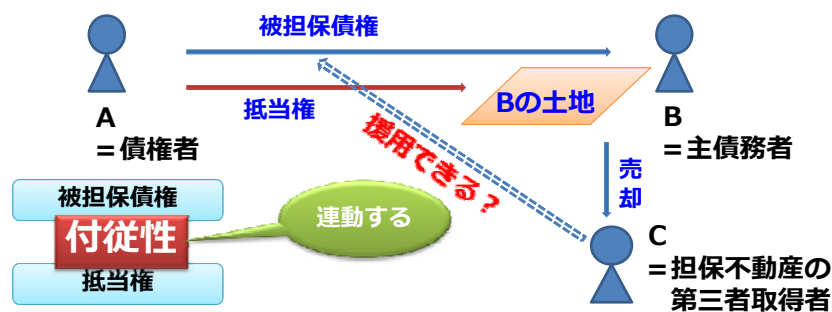
抵当権とは

- ①Bがお金をAに返さない
- ②AはCの土地に抵当権実行
- ③実行により競売にかける
- ④売却代金が得られる
- ⑤Aが貸していた金を回収

Aのほかに誰か債権者がいたとしても、**自分だけが最優先で売却代金からお金を回収する権利**

時効の援用権者 ③担保目的物の第三者取得

BがAにお金を借りる際、Bの土地に抵当権を設定し、Cに売却した

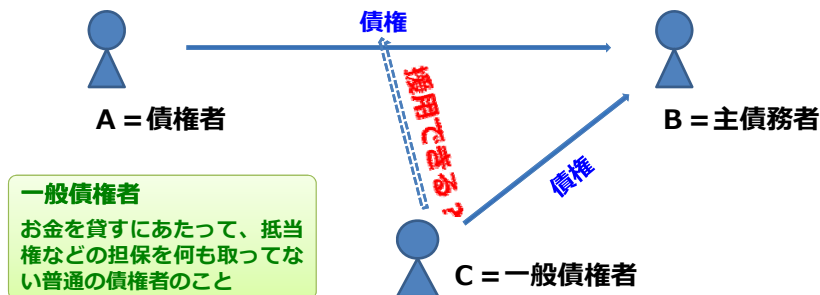


問題

Aからの請求がないまま10年が経過したとき、Cは消滅時効の援用ができるか？

時効の援用権者 ④一般債権者

AがBにお金を貸していて、CもBにお金を貸している

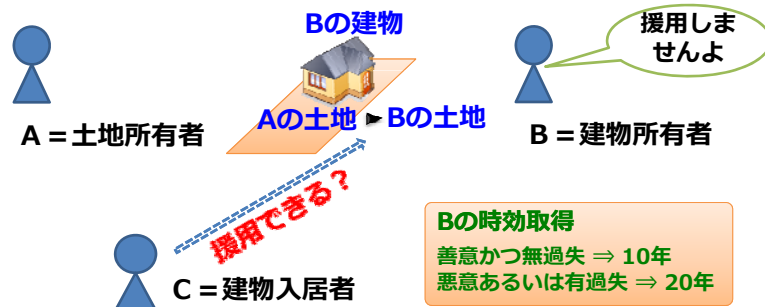


問題

Aからの請求がないまま10年が経過したとき、Cは消滅時効の援用ができるか？

時効の援用権者 ⑤間接利得者

Aが所有する土地にBが無断で建物をつくり、それをCに賃貸した



問題

ヒント：次のスライドを参照せよ

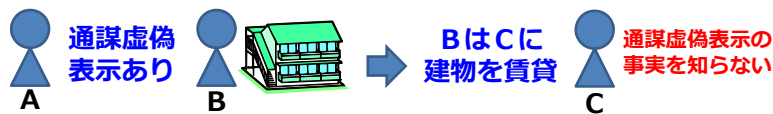
Aからの請求がないまま10年が経過したとき、CはBの取得時効の援用ができるか？

第三者とは何か

94条2項における「第三者」の定義

その表示の目的物につき、新たな法律上の利害関係を
取得した者

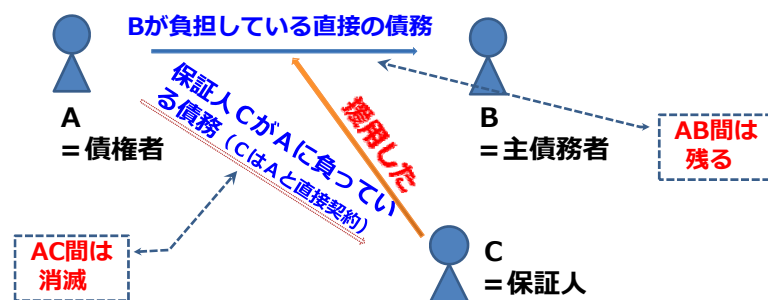
Aは土地をBに売却したように装い、Bがその土地に建物を建てた



この場合、Cは第三者にあたるか？

援用の相対効

時効の効果は、これを援用した者についてのみ生じる（その人ごとに考える）

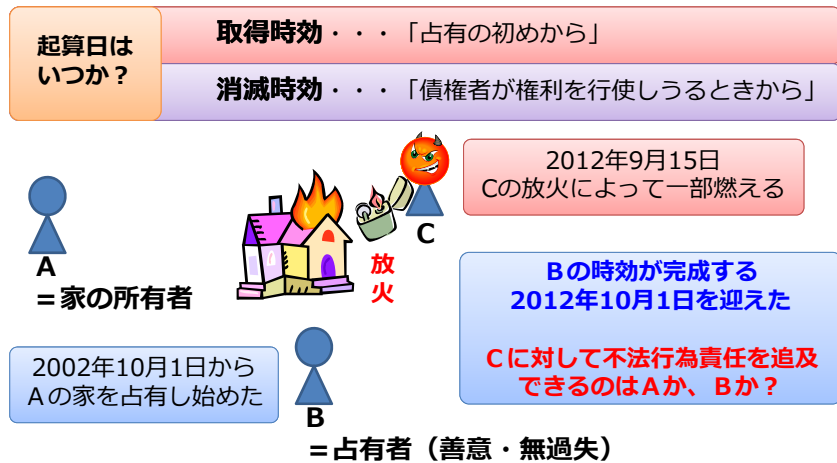


問題

Cは、AB間の主債務に消滅時効の援用をしてAC間の債務を消滅させることができたが、なぜAB間に残るのか？

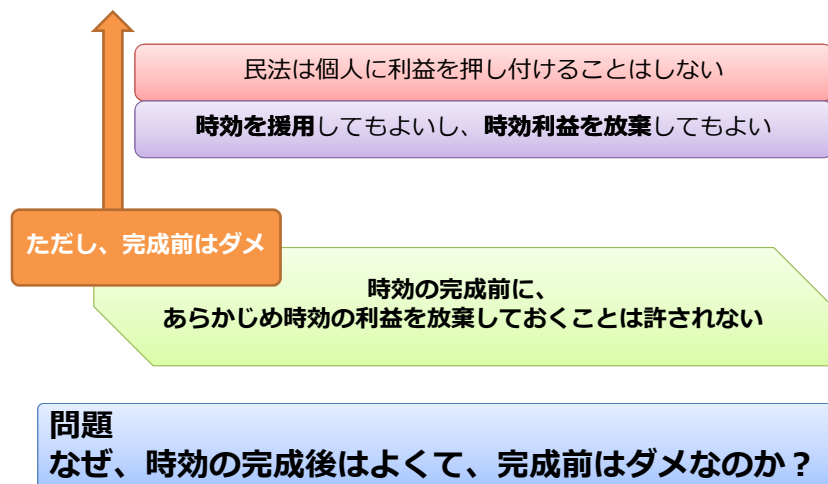
時効の遡及効

～ 時効の効果は、「起算日」までさかのぼる ～
「起算日」とは時効期間の始まりとなった、事実状態の開始の日



時効利益の放棄

時効の完成後に、時効による利益を享受しない旨の意思表示をすること



時効完成後の債務承認

時効が**完成した後に**、債務者が認めた場合(債務承認)は時効利益の放棄か

①債務者が**時効完成を知っていた場合**

時効利益の放棄

②債務者が**時効完成を知らなかった場合**

すみません、来月必ずお返しいたします



A
= 債権者



B
= 主債務者

放棄とは言えない

10年経っているのを知らずに借金していることを承認してしまった

問題

上記例②が「放棄」ではないとすれば、この後、Bが時効の援用をしたら、これをどう解釈すればよいか？

時効の中断（意義）

時効期間の経過中、それまでの期間の経過を覆し、まったく無意味にする



0000

時効の
リセットボタン

請求

4つある

差押

差押

仮差押

仮処分

承認

被保佐人
OK

被補助人
OK

問題

なぜ、請求や差押をすると、時効が中断するのか？

請求（民事訴訟の提起）

4種類 の請求

- ①裁判上の請求
- ②支払督促
- ③和解のための呼び出し
- ④破産手続きへの参加

裁判上の請求をすると時効が中断する

例外

「訴えの取下げ」
「却下」
「請求棄却(敗訴)」
の場合は中断しない

問題

「却下」と「棄却」の違いは何か？

裁判外の請求

問題

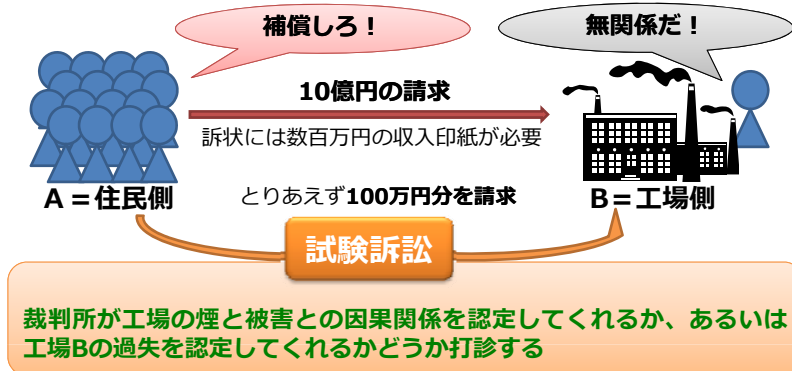
裁判以外の請求でも、時効は中断するのか？

- ①「電話」による請求
- ②内容証明郵便などの書面による請求



時効の完成を6ヶ月間引き延ばせる

一部請求と中断の範囲



問題

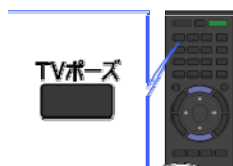
時効が中断するのは、損害10億円全体か、100万円分のみか？

時効中断の効果と時効の停止

問題

中断の効果とは「それまでの時効期間が覆されてゼロになる」ことだが、中断以後も中断以前と同じ事実状態が続いた場合はどう判断するか？

時効の停止とは「時効の完成間際に、**時効の中断を困難にする一定の事情**が生じた場合、その期間だけ時効の完成を延期する」こと。



大地震が発生して裁判所へ行けなかった…